

今年はエルニーニョ現象が発生・・・こんな話が春以降、テレビ・新聞等の報道で見聞きするようになっていきます。

では、このエルニーニョが発生すると、我が国にどのようなことが起きるのでしょうか。

まず、簡単にエルニーニョについて説明します。赤道付近では、貿易風と呼ばれる偏東風が吹いていますが、これが何らかの原因により弱まると、それまで温度の高い海水が東風でインドネシア海域まで押し流されていたのが、太平洋東部のペルー沖に留まったままになります。この状態がエルニーニョで、反対に偏東風が強まり、ペルー沖で深いところの低温の海水が湧き上がってきて、同じ海域の海水温が下がるのがラニーニャです。

発生原因はいまだ詳しく究明されていませんが、赤道域の海流の変化や最近では月の潮汐力との関わりが指摘されています。

またインド洋でも、ダイポールモードという同様の現象が確認されています。

広範囲・長期間にわたる海水温の変化は、大規模な風の運動など通常とは異なる大気のパターンを生み、日本だけでなく西欧や北米大陸にまで異常気象をもたらす原因となっています。

エルニーニョの状態になった時の梅雨の特徴は、西日本で降水量が多くなる傾向があり、梅雨明けの時期も全国的に遅くなる傾向があります。

よくいわれている冷夏・暖冬というのは特徴を端的に言い表したもので、エルニーニョが発生していたにもかかわらず猛暑になったり、猛暑・厳冬になりやすいラニーニャ年で冷夏になったこともあり、一概に天候の予測を決めつけることはできず、特徴としてこうした傾向があるくらいに考えておいてよいでしょう。

しかしエルニーニョの年は冷夏になるだけでなく、大雨が降りやすい傾向もあります。防災面からは、集中豪雨や土砂災害に対しての、いつにも増した警戒を忘れないようにしたいものです。

